

医学教育分野別評価
昭和大学医学部医学科

年次報告書
2023 年度



令和5年8月
昭和大学医学部医学科

医学教育分野別評価 昭和大学医学部医学科 年次報告書 2023年度

医学教育分野別評価の受審 2018（平成30）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35

2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 初年次の全寮制教育と中・高学年での4学部連携実習を実施することで、多職種連携教育を実践していることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ 学習意欲を高めるために、2年次3年次におけるカリキュラムの過密化を改善すべきである。
- ・ 学生が段階的に学修成果を修得できるようなカリキュラムを定めるべきである。

改善状況

- ・ 新カリキュラムが3年次まで累進し、予定通り実施した。
- ・ 新カリキュラムの3年次は“基礎・臨床統合教育”として、「膠原病・血液・感染症」、「消化器」、「神経」、「糖尿病・代謝・内分泌」、「皮膚・運動器」、「女性生殖器」、「精神科」、「小児科」の9ブロックを展開し、カリキュラムの過密化を低減させた。
- ・ 基礎・臨床統合教育では、知識はオンデマンド講義、対面授業はアクティブ・ラーニングを徹底した。
- ・ 臨床実習Ⅳ（全科実習）を、3年次前期は毎週火曜日に、後期は水曜日に継続して実施した。
- ・ プロフェッショナルリズム・行動医学は、ⅢA、ⅢBとして通年で学んだ。
- ・ 医学英語は、専門の教育職員が2022年9月から赴任し、基礎・臨床統合教育の各ブロックにおいて関連する医学英語の総論について講義・演習を開始した。

今後の計画

- ・ シラバスの「全学年を通しての関連ユニット」に、アドバンスド・ワークショップにおいて再考したコンピテンスとコンピテンシーマップを掲載し、全科目のシラバスに、該当コンピテンスとコンピテンシーの明示を促す。
- ・ 2023年度の前期は、新カリキュラムのM4が基礎・臨床統合教育として「感覚器系ブロック」、「麻酔・救急系ブロック」、「腫瘍・緩和ブロック」、「社会医学系・研究ブロック」を展開する。
- ・ 2023年度の後期から、新カリキュラムのM4が診療参加型臨床実習（Clinical clerkship: C.C.）を開始する。
- ・ 2023年度の前期で、基礎・臨床統合教育の全15ブロックが完成・終了するため、内容や評価について再検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 2：2022 シラバス (M2～M6)
- ・ 資料 3：新カリキュラムカレンダー
- ・ 資料 4：医学英語カリキュラム

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 多職種連携教育により、チーム医療を実践する上で必要な医師としての能力を生涯にわたって涵養するためのカリキュラムを設定していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 基礎・臨床統合教育において、知識の自己学修とアクティブ・ラーニングによる協調学修、問題発見と解決、医学論文の執筆と発表など生涯教育に繋がる能力を涵養している。

今後の計画

- ・ 基礎・臨床統合教育や学部連携教育は、学修内容や評価法を検討しながら継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 5：2022 ジャーナルクリエーション冊子例
- ・ 資料 6：2022 ジャーナルクリエーション発表会式次第

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

- ・ 研究マインドを育成するプログラムをすべての学生が受講できるカリキュラムを構築すべきである。
- ・ 臨床実習の場での EBM の実践をさらに推進すべきである。

改善状況

- ・ 科学的手法と医学研究の手法を低学年から実践を通して学修し、研究マインドを育成するために、1年次の後期科目「基礎サイエンス医学部実習」を、2022年度から「医療サイエンス演習」として再構成し、人を対象とする研究方法と解析を積極的に学習する内容とした。2年次では、2021年度の新カリキュラムから、基礎講座別の受動的な実習から、解剖学・生理学・生化学の水平統合型演習・実習として、事前学修やグループ討議を取り入れ、アクティブ・ラーニングにより提示した課題を能動的に解決する演習・実習に変更した。新カリキュラム（2年次2021年度、3年次2022年度）の主に臓器別に構築される基礎臨床統合教育で、臨床上の臨床カル・クエスチョンをもとにリサーチ・クエスチョンを作成するアクティブ・ラーニングの授業（ジャーナル・クリエーションなど）を繰り返し実施している。
- ・ 研究不正に対する正しい理解と倫理観を醸成するため、1年次は2022年度から「コミュニケーション」で、2年次は2021年度から「医学教育」で研究倫理の基本知識を学修するカリキュラムを加えた。
- ・ 2022年度からEBM演習（症例をもとに、適切な薬物治療のエビデンス検索、批判的吟味、模擬患者・医師とのロールプレイを行うグループ演習）を、3年次後期の基礎臨床統合授業の中で実施した。

今後の計画

- ・ 2023年度からの4年次新カリキュラムにおいても、基礎臨床統合教育で臨床・クエスチョンからリサーチ・クエスチョンを作成する授業を継続して実施する。
- ・ 4年次からの診療参加型実習では、担当患者の治療などについて、EBMを基盤に提案・実施することを必須として、EBMを繰り返し実践することをさらに推進する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1：2022シラバス（M1）
- ・ 資料2：2022シラバス（M2～M6）

質的向上のための水準： 適合

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 大学全体の研究を促進・啓発する組織である昭和大学統括研究推進センター（SURAC）の指導のもと、本学の臨床研究の促進を目的に、1年次は2022年度から「医療サイエンス演習」で人を対象とする研究の方法・解析の基本を体験し、2年次は2021年度から「医学教育」で研究倫理を、3年次は2022年度から「EBM演習」で臨床統計資料の解析を行った。

今後の計画

- ・ 適切な臨床研究の方法と研究倫理を理解するため、2023年度からの4年次新カリキュラム「社会医学」では、臨床研究の手法と解析法、研究倫理および研究までのプロセスについて、演習を取り入れた学修を構築する予定である。
- ・ 臨床研究および基礎研究への参加を希望する学生に対し、学生が主体的に研究を実践するカリキュラムの整備について検討を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1：2022シラバス（M1）
- ・ 資料2：2022シラバス（M2～M6）

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学の講義、実習に臨床医学の内容を積極的に取り入れている。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 多様な臨床医学の知識や技能を、基礎医学とも関連付けながらアクティブ・ラーニングを中心に学習する基礎臨床統合教育（垂直型統合授業）を、2021年度からの2年次新カリキュラムの2領域（ブロック）、2022年度からの3年次新カリキュラムの9領域すべてで実施した。

今後の計画

- ・ 1年次における臨床医学と関連付けた基礎医学の水平・垂直型統合型カリキュラム（実習を含め）について継続して検討し、1年次からシームレスに、基礎医学と臨床医学を統合して学修する新たな体系的なカリキュラムの構築を行う。
- ・ 2023年度の4年次新カリキュラムでも、3領域（ブロック）について同様の基礎臨床統合教育（垂直型統合授業）を予定している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料7：2022 別表（M2）
- ・ 資料8：2022 別表（M3）

質的向上のための水準： 適合

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを6年一貫カリキュラムの中で検討し、基礎医学教育の内容を検討することが望まれる。

改善状況

- ・ 2021年度からの2年次、2022年度からの3年次新カリキュラムにおける基礎臨床統合教育で、現在および将来的な社会医学上の重要事項を、アクティブ・ラーニング（ジャーナル・クリエーション、ジョイント講義など）で能動的に学修するカリキュラムを実施した。

今後の計画

- ・ 2023年度からの4年次基礎臨床統合教育の3領域（ブロック）においても、社会医学上の重要事項を、アクティブ・ラーニングによって学修できるようにカリキュラムを構築する。
- ・ 上記に引き続き、現在および将来的に社会や医療システムで必要になる事項についてより深く、能動的に学修するため、2023年度からの4年前期「社会医学」で、衛生学公衆衛生学、法医学、臨床薬理学の教員が連携・協働して、アクティブ・ラーニングを実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料7：2022 別表（M2）
- ・ 資料8：2022 別表（M3）

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準： 部分的適合

改善のための助言

- ・ 行動科学と医療倫理のプログラムを体系化し、責任者を置いて系統的に実践すべきである。

改善状況

- ・ プロフェッショナルリズムについてのコンピテンシーを見直し、マイルストーンを策定した。レベルCを2年生の基礎・臨床統合教育前まで、レベルBを臨床実習前まで、レベルAを卒業時として、カリキュラムマップを作成した。
- ・ 令和4年度の3年次より、行動医学、プロフェッショナルリズム教育は年間を通して実施した。

(これまでは後期のみの集中した講義形式であった)

- ・ プログラムの検討は、医学部教育委員会内の「行動医学・プロフェッショナリズム委員会」で行った。構成メンバーは、医学教育専門家、緩和ケア医、精神科医、倫理学教員、医学部学生部長、公認心理士、富士吉田教育部教員および臨床教員(放射線治療医、整形外科医、産婦人科医)である。オブザーバーとして、横浜市立大学および江戸川大学の臨床心理士が参加し、他大学からの意見を頂いた。1年次から5年次まで、らせん状に継続的な内容とした。
- ・ プロフェッショナリズム教育を推進するために「医学生のプロフェッショナリズムに関する教育・評価ガイドライン」を策定し、運用を開始した。これは、教育の推進と共に、アンプロフェッショナルな行為を詳細に明示した内容である。教員は Google Forms でアンプロフェッショナルな言動を記載し、指導・フィードバックを行う。
- ・ 「医学生のプロフェッショナリズムに関する教育・評価ガイドライン」の周知のため、教員には准講会や教育担当者会での説明を行った。また、昭和大学の eラーニングシステムや指導担任への説明動画を作成し、視聴を必須として配信した。
- ・ 「医学生のプロフェッショナリズムに関する教育・評価ガイドライン」の学生への周知は、2022年3月30日のオリエンテーションで、全学年に説明を行った。また、毎回の行動医学・プロフェッショナリズムの講義の冒頭で、実際の事案を示し、ガイドラインの関係した項目を周知した。

今後の計画

- ・ アセスメントマップを作成する予定である。
- ・ 基礎・臨床統合教育の臨床ブロックと関連した行動医学・プロフェッショナリズムとして、4年次に、2023年4月に感覚器ブロックで、聴覚障がいを持つ講師が講義を行う。その後、麻酔・救急・集中治療系、腫瘍・緩和医療系、社会医学のブロックでも行動医学・プロフェッショナリズム教育を継続する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 9:2022 教育者のためのワークショップアドバンスコース開催概要・報告書
- ・ 資料 10:コンピテンシーに基づくマイルストーン表
- ・ 資料 11:2022 行動医学・プロフェッショナリズム委員会議事録
- ・ 資料 12:2022 カリキュラム検討小委員会議事録
- ・ 資料 13:医学生のプロフェッショナリズムに関する教育・評価ガイドライン
- ・ 資料 14:医学生のプロフェッショナリズムに関する教育・評価ガイドライン 動画案内文
- ・ 資料 1:2022 シラバス(M1)
- ・ 資料 2:2022 シラバス(M2～M6)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 高齢化社会における在宅医療、地域医療に対応したカリキュラムを実施していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを6年一貫カリキュラムの中で検討し、社会医学系教育の内容を検討することが望まれる。

改善状況

- ・ 学連連携教育の中で、在宅医療について、1年次から6年次までの螺旋型の教育を実践しており、行動医学・プロフェッショナリズム教育との橋渡しを行った。具体

- 的には、行動医学・プロフェッショナリズムⅢAの中で、「関節リウマチの在宅医療」をテーマとして、在宅を実施している医師による講義とグループ討議を行った。
- ・ 3年次に実施した地域医療実習で、地域包括ケアシステムの実際を調べ、プレゼンテーションを行った。

今後の計画

- ・ 地域医療教育に精通する臨床教員が2023年4月より着任し、これまで医学部3年次、5年次で行ってきた地域医療実習を見直していく。
- ・ 令和5年の4年次前期の公衆衛生学の教育時に、学生自ら社会制度について学ぶ機会を作る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2：2022シラバス（M2～M6）
- ・ 資料15：2022M3 地域医療実習 手引き
- ・ 資料16：2022M3 地域医療実習報告会資料（抜粋）
- ・ 資料19：2022履修系統図

2.5 臨床医学と技能

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 臨床能力を十分に修得するため、臨床実習を72週に拡大していることは評価できる。
- ・ 4学部連携臨床実習を通じてチーム医療を教育していることは高く評価できる。
- ・ 研修医がチーム医療のメンバーとして臨床実習における学生教育に参画し、屋根瓦方式が実践されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ すべての学生が重要な診療科で診療参加型臨床実習を十分な期間で経験できるようにすべきである。
- ・ 臨床実習で学生が健康増進と予防医学を体験できるようにすべきである。

改善状況

- ・ 学修者が教室の学びと臨床での学びを統合できるよう初年次からの臨床実習を実施した。特に、新カリキュラムの3年次による臨床実習IVBでは、医師のプロフェッショナルリズムの学修とともに、各診療科の疾患および患者の背景・想いを学修する機会を得て、次年度から開始する臨床実習V（診療参加型臨床実習）への準備を進めた。
- ・ M3臨床実習IVBでも経験手技、経験症例を蓄積し、学修の振り返りの材料とした。

今後の計画

- ・ 2023年度からは、新カリキュラムの4年次後期より2年間の臨床実習V（診療参加型臨床実習）を導入する。本実習では、卒業時に直ちに医師として働ける知識・技能・態度を診療チームの一員として診療することを通して修得する。特に、患者との会話や身体診察を含む「診療録記載」を実習の評価に含め、診療参加を促進する仕組みを計画している。
- ・ 臨床実習Vでは、主要な診療科で学修する時間を明示する。
- ・ 臨床実習に向けた準備教育として新たに4年次「基本的診察技法・治療実習」を導入し、1年次から4年次に修得した各領域の基本的診察技法・手技の確実に修得で

きる機会とする。

- ・ 医学教育部門に地域医療を専門とする教員が着任予定であり、社会のニーズに応えるため地域医療や高齢者医療に関連するカリキュラムを強化する。
- ・ テレメディシンや AI 技術を取り入れた教育プログラムの開発を進める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 17：2022 臨床実習 IVB 手引き
- ・ 資料 18：臨床実習 IVB 関連資料

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 低学年から各学年において学生が患者と接触する機会が設けられていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ シミュレーション教育をより充実することによって、臨床技能教育を安全かつ体系的に行うことが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせて段階的に臨床技能を学べるように教育計画を構築することが望まれる。
- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを 6 年一貫カリキュラムの中で検討し、臨床医学教育の内容を検討することが望まれる。

改善状況

- ・ シミュレーション教育の充実を図るため医学教育学講座に専任の教員が就き、侵襲的な手技を含む高度医療の学修機会・内容の改善を図った。特に、基礎臨床統合教育、および臨床実習実施時のシミュレーション教育を充実させた。

今後の計画

- ・ 3 年次、5 年次に実施されている地域医療実習は、実習先である各医療機関の指導担当医師に本学のカリキュラムや医学教育の最新情報を学修する機会をオンラインおよび対面にて提供する予定である。
- ・ シミュレーション教育の充実を図るため、シミュレーションセンターの運営組織を設置し、運用および利用促進の方策を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 20：2022 シミュレーションセンター授業の状況

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育機関

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 初年次全寮制教育により学生のモチベーションが高められた上で、専門教育が実践されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 2021 年度 2 年次に続き、3 年次に基礎・臨床統合教育を実施した。

- ・ 2021 年度 2 年次に続き、3 年次に臨床実習Ⅳ(全科実習)を実施し、臨床実習の配分が増加した。

今後の計画

- ・ 基礎医学教育運営委員会でのプログラムの見直しに伴い、授業および実習の時期を見直す。
- ・ 2023 年度より新しいカリキュラムにおける臨床実習Ⅴ(診療参加型臨床実習)が開始されるため、臨床実習委員会が中心になりプログラムを構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 8 : 2022 別表 (M3)
- ・ 資料 19 : 2022 履修系統図
- ・ 資料 17 : 2022 臨床実習ⅣB 手引き

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 基礎医学における水平的統合を推進することが望まれる。
- ・ 臨床医学、基礎医学の垂直的統合を推進することが望まれる。
- ・ 臨床医学、基礎医学ともに、選択科目と必修科目の配分を考慮して設定することが望まれる。

改善状況

- ・ 2021 年度 2 年次に続き、3 年次に「基礎・臨床統合教育」を実施した（膠原病/血液/感染症系ブロック、消化器/胆道系ブロック、神経系ブロック、尿路・男性生殖器系ブロック、糖尿病・代謝・内分泌系ブロック、皮膚・運動器系ブロック、女性医療系ブロック、精神医療系ブロック、小児系ブロック）。
- ・ 「基礎・臨床統合教育」では基礎医学および臨床医学、さらに行動医学・プロフェッショナルリズム教育、医学英語教育を統合した。
- ・ 2021 年度 2 年次に続き、臨床実習Ⅳ(全科実習)実習を 3 年次に実施し、基礎・臨床統合教育と同時期に実施することにより、学生の知識や技能の診療現場における統合がなされた。

今後の計画

- ・ 基礎・臨床統合教育を、2023 年度は 4 年次まで延伸する予定である。
- ・ 新カリキュラムでは、補完医療の授業は 2023 年度 4 年次の前期に、6 コマ程度を予定している。
- ・ 臨床実習Ⅴ(診療参加型臨床実習)が 2023 年度 4 年次後期から開始され、充実した臨床実習の期間を確保するとともに、必修診療科および選択診療科(地域医療、基礎教室配属を含む)を設け、学生のニーズと学修意欲に応じるプログラムを実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 2 : 2022 シラバス (M2~M6)
- ・ 資料 8 : 2022 別表 (M3)
- ・ 資料 19 : 2022 履修系統図

2.7 教育プログラム管理

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 「教育委員会」、「カリキュラム検討委員会」及び「プログラム評価委員会」はそれぞれ独立した委員会として情報共有しながら、教育プログラムの改善に向け連携して活動した。
- ・ 授業アンケートを含め、授業および実習に対する意見を電子的に収集し、翌年度のカリキュラムの改善への根拠資料とした。
- ・ カリキュラム検討委員会やプログラム評価委員会に外部の教育専門家 2 名を増員し、より充実したなカリキュラム立案・実施・評価の体制を整えた。
- ・ プログラム評価委員会の下部組織として、「医学部 IR 委員会」を設置した。

今後の計画

- ・ 引き続き、カリキュラム検討委員会の構成を検討しながら、委員会を実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 21：2022 医学部カリキュラム検討委員会委員一覧
- ・ 資料 22：2022 医学部プログラム評価委員会委員一覧
- ・ 資料 23：2022 プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料 24：医学部カリキュラム関係組織一覧

2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラム検討委員会に各附属病院の代表者が加わり、卒業生が将来働く環境からの情報を得ている。

改善のための示唆

- ・ 地域・社会の意見を組織的・体系的に集約することが期待される。

改善状況

- ・ キャリア支援室により、卒業生が働く環境からの情報を得た。学修習慣・自己啓発がやや低い評価であった。新カリキュラムでは、それに対応するため M2-M4 に基礎・臨床統合教育を導入した。

今後の計画

- ・ より多くの医療機関から、卒業生の情報を得て、教育プログラムの改良に結びつける等の検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 25：2022 昭和大学教育に関する調査（医学部）

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 4学部連携教育では、多職種による評価が行われていることは高く評価できる。
- ・ 診療参加型臨床実習の評価にポートフォリオを活用していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 診療参加型臨床実習では、知識・技能・態度を含むパフォーマンス評価を導入すべきである。
- ・ 評価における利益相反についての規程を作成すべきである。
- ・ 評価結果に対する疑義申し立て制度を構築すべきである。

改善状況

- ・ 2022年度より、従来の卒業試験に加え、定期試験の疑義申し立てについても実施した。
- ・ 2022年度より、定期試験、総合試験においても卒業試験と同様に解説付き回答用紙を配布した。
- ・ 新カリキュラムのアクティブラーニングとしてのジャーナルクリエイションやシナリオクリエイションについては、複数の教員によるルーブリック評価を実施した。

今後の計画

- ・ 外部専門家を含むプログラム評価委員会等で、評価内容を精密に吟味する。

改善状況を示す根拠資料

資料 26：「試験問題の解答・解説の開示および疑義照会について」周知文

資料 27：2022 別表 基礎臨床統合教育コースの評価について

3.2 評価と学修との関連

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 低学年から統合的学修を促進し、それに適した試験の回数と方法を定めることが望まれる。

改善状況

- ・ 新カリキュラムでは、2年次に引き続き、3年次も基礎・臨床統合教育では完全な水平的・垂直的統合教育を導入することにより、試験の回数と方法を適正化した。すなわち、各ブロックの開始時に確認テスト、終了時に総括テストを実施し、講義中のアクティブラーニングについては、別途評価とした。

今後の計画

- ・ 令和5年度は、新カリキュラムの4年次がスタートする。基礎・臨床統合教育の確認テストや総括テストの時期や回数など総括評価の方法については、学生の意見も取り入れながら、検討し修正を加えていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 27：2022 別表 基礎臨床統合教育コースの評価について
- ・ 資料 28：2022M3 時間割抜粋

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 1 年次終了後の転部入学制度が有効に機能していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

追加審査

- ・ 2018 年 9 月 14 日と 9 月 28 日の文部科学省による「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る訪問調査」の結果、①合格補欠者のうちから同窓生子女を優先的に合格させていること、②現役・一年浪人受験生に対し二次試験で加点を行っていること、の 2 点が指摘された。これらの調査結果から、同年 12 月 14 日の文部科学省が公表した「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る緊急調査最終まとめ」において不適切な事案として報告された。この結論は「学生の選抜方法についての明確な記載を含め、客観性の原則に基づいて入学方針を策定し、履行しなければならない。」（B4.1.1）に抵触するものであり、審議を停止して、改善状況を確認することとした。2020 年 2 月 6 日に昭和大学医学部医学科の関係者に対してヒヤリングを実施し、昭和大学医学部医学科が「昭和大学医学部入学者選抜に関する第三者委員会」による調査によって社会的説明責任を果たし、2019 年度入学者試験選抜において公正に実施されていることを確認した。さらに、2020 年度の学生募集要項に公正確保が明示されていることを確認した。また、「入学者選抜試験検証委員会」を設置して、調査・改善を実施して適宜改善を行う計画であることも確認した。

改善状況

- ・ アドミッションポリシーに基づき、2023 年度入試の一般選抜入試Ⅱ期の面接試験を MMI (Multiple Mini Interview) 方式にて実施した。
- ・ 2023 年度入試の一般選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期の面接試験において面接委員を男女同数にて実施した。

今後の計画

- ・ 引き続き、入試選抜検証委員会において、大学全体として公平性を確認する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 29：入学試験関連資料

4.2 学生の受け入れ

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 十分な教員を擁し、適切な入学者数を決めていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

追加審査

- ・ 平成 29 年度と平成 30 年度の受験者のうち 3 名が平成 31 年 4 月に追加入学した令和 2 年度から令和 4 年度における入学定員が従来より 1 名減少して 119 名となる。

改善状況

- ・ 2023 年度入試においては、定員を充足するため、様々な募集枠を設定している。

今後の計画

- ・ 地域枠を増員し、地域や社会からの医療に対する要請に応じていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 30：入学試験要項（2023）

4.3 学生のカウンセリングと支援

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学業成績不振学生に対する修学支援制度が 2 年次から 4 年次まで整備されている。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 修学支援の対象となっている学生については、年度の初めに指導担任と修学支援担当教員および学生との三者面談、更には、希望する保護者とは、指導担任と修学支援担当教員との三者面談も行った。三者面談は、2022 年度も引き続きコロナ禍であったため google meet あるいは zoom を用いて行ったが、多くの保護者に参加していただいた。対象学生 53 名中 35 名の学生の保護者と実施した。実施率は 66.0%であった。
- ・ 4 学部合同で、修学支援担当教員の情報交換会を行い、修学支援の具体的な指導方法を挙げ、討論を行った。

今後の計画

- ・ 上記の三者面談や情報交換会は、引き続き行っていく。
- ・ 現在、修学支援は主に 2～4 年生を対象に行っているが、1 年生あるいは 5-6 年生を対象とした支援制度についても確立させていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 31：2022 修学支援制度について
- ・ 資料 32：2022 修学支援・保護者面談案内通知

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

- ・ カリキュラム検討委員会とプログラム評価委員会に学生が積極的に参加すべきである。

改善状況

- ・ 引き続き、2022 年についても、カリキュラム検討委員会およびプログラム評価委員会には、学生委員の代表者が参加し、議論に加わった。

今後の計画

- ・ 学生がカリキュラムの検討や評価に、非常に積極的に参加するようになったため、これをさらに推進する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 33：2022 カリキュラム検討委員会議事録
- ・ 資料 23：2022 プログラム評価委員会議事録

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教員が職種や職位とは無関係に「教育職員」と呼ばれ、教員としての自覚を育んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 新規採用教員の募集と選抜には、教育業績の評価基準を明確にすべきである。
- ・ 指導的立場の女性教員の増加に取り組むべきである。

改善状況

- ・ 学内のダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包摂性）：（以下、D&I）を推進する広報活動の一つとして、D&I のニュースレターを発行した。
- ・ 学内における D&I に関する意識調査のアンケートを実施し、調査結果は D&I のニュースレター、学内 HP で周知を行った。

今後の計画

- ・ 引き続き D&I ニュースレターを発行し、学内に周知を行う。
- ・ 上記アンケート調査結果を基に、希望する学部ヒアリングを行い、学内の環境整備を行うための参考とする。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 34：D&I ニュースレター（1 号～4 号）

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 新しい課題や活動に関するワークショップ・講習会・説明会など、多彩な FD を頻回に開催しており、熱意のある教員が積極的に参加している。

改善のための助言

- ・ 全教員が必修で参加する講習会形式のFDを実施するなど、個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。

改善状況

- ・ 毎年開催している「昭和大学医・歯・薬・保健医療・富士吉田教育部教育者のためのワークショップアドバンストコース」(2日間)において科目責任者を参集し、2グループに分かれ、①“カリキュラムマップ・アセスメントマップの見直し”と②2023年度開始予定の“臨床実習Ⅴ(診療参加型臨床実習)についての検討”をすることで、新カリキュラムの理解をさらに深めた。
- ・ 各科から選出されている教育担当者を中心として、教育担当者会でカリキュラムについて説明と討議を行った。
- ・ 毎年、教育功績について顕彰を行っている。

今後の計画

- ・ 2023年度「昭和大学医・歯・薬・保健医療・富士吉田教育部教育者のためのワークショップ」(アドバンストコース)において、2023年度の臨床科目責任者を参集し“新カリキュラムにおける臨床実習Ⅴ(診療参加型臨床実習)の構築”と題して、実習開始前によりカリキュラムについて一層の理解を深める予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料9：2022教育者のためのワークショップアドバンストコース開催概要・報告書
- ・ 資料35：2022教育委員会議事録(2023.3)

6. 教育資源

6.1 施設・設備

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ アクティブラーニングなど双方向教育の実施しやすい環境の整備と、学生・研修医の能動的学習に十分なスペースの確保が望まれる。

改善状況

- ・ シミュレーションセンターにおいて、学生教育のためのシミュレータや備品を充実させた。
- ・ 2022年4月、シミュレーション教育を専門とする教員が着任し、シミュレーション・センターの運営、管理の整備を進めている。

今後の計画

- ・ 基礎臨床統合教育における双方向教育、能動的学修を促進する。
- ・ 教育委員会にシミュレーション教育委員会を組織し、4年次-6年次の臨床手技実習において、各診療科で評価を行えるよう、動脈血採血、分娩、心電図計測シミュレータなどを少人数のスキルトレーニングにも活用する。
- ・ 教育委員会に組織したシミュレーション教育委員会において、2020年度入学生の新しい診療参加型実習中のスキルトレーニング、評価を実施する体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 54：2022 シミュレーションセンター購入一覧

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- 7つの附属病院と1つのクリニックを擁し、十分な臨床トレーニング施設を確保していることは評価できる。
- 「4大学間の学生教育交流会」の協定によって、他大学で臨床実習が受けることができる。

改善のための助言

- 学生が受け持つ患者の数と疾患分類を常に把握し、学生が経験する疾病の偏りを是正すべきである。
- シミュレーションセンター（スキルス・ラボ）を拡充すべきである。
- 全教員ならびに学外指導者に対するFDをよりいっそう推進すべきである。

改善状況

- 全140科余りの附属病院の各診療科の教育担当者が集う教育担当者会・全体会を春季・秋季・冬季に定期開催し、最新の教育情報の発信と臨床教育における意見を収集した。

今後の計画

- e-ポートフォリオをさらに充実し、学修者が学修記録を利用しやすいシステム（Moodleを利用）へと改善を図る。特に令和5年から開始する臨床実習V（診療参加型臨床実習）では、臨床実習の「振り返り（省察）」を効率よく実施できるシステムへと改善する。
- シミュレーション・センターの運営組織・規定を整備し、運用体制を強化する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 36：2022 教育担当者会・全体会 議事録

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 学生優先の電子カルテ端末が病棟に用意されていることは評価できる。

改善のための助言

- なし

改善状況

- LMS (Moodle)を導入し、M2 臨床実習IVAで活用し始めた。

今後の計画

- 臨床実習Vでの学生の電子診療録記載の運用を見直し、学生医の権限や経験症例・手技の登録等の学修情報を、医療安全の観点からも円滑に運用できるよう整備する。

- 臨床実習Ⅴでの学生の電子診療録記載の正式運用に向けて、昭和大学横浜市北部病院にて上級生によるトライアルを実施し医療安全の観点からも確実に公式の「診療録」として運用できるよう準備する。また、プログレスノートの記載だけでなく、サマリ記載、診療情報提供書、対診依頼書についても指導医のもとで確実に経験できるように準備する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 37：2022 臨床実習ⅣA ポートフォリオ活用例

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- より多くの学生が研究に触れる機会を設けることが望まれる。

改善状況

- 医学部 2 年生対象の「基礎臨床統合教育Ⅰ」コースを 2021 年度に設置したことに続き、2022 年度には医学部 3 年生対象の「基礎臨床統合教育Ⅱ」コースを新たに設置し、同コース内でグループワークである「ジャーナルクリエーション」を実施し、以前に比して学生が研究に触れる機会が増加した。
- マルチドクタープログラムの総受講者数は、2017 年度 18 名（新規開始受講者数 5 名）、2018 年度 31 名（同 12 名）、2019 年度 40 名（同 12 名）、2020 年度 41 名（同 22 名）、2021 年度 44 名（同 23 名）、2022 年度 45 名（同 17 名）と推移している。2022 年度は前年度に比して総受講者数が 1 名増加し、より多くの学生が研究に触れる機会を得た。
- マルチドクタープログラム修了生の平均取得単位数は、2021 年度の 2.9 単位から 2022 年度は 3.7 単位へ増加した。

今後の計画

- 2023 年度に医学部 4 年生対象の、「基礎臨床統合教育Ⅲ」コースを新たに設置し、そのコースにおいても「ジャーナルクリエーション」を実施し、学生が研究に触れる機会を増やす。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 2：2022 シラバス (M2～M6)
- 資料 38：「Multi Doctor (マルチドクター) プログラム説明会」資料 (2022 年 12 月 26 日実施)

6.5 教育専門家

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点 (特色)

- 「教育者のためのワークショップ (ビギナーズとアドバンスト)」が開催されていることは評価できる。

改善のための示唆

- FD のテーマが PBL などに限定され、参加者も比較的少人数である。幅広いテーマと多くの教員が参加できる FD の開催も望まれる。

改善状況

- ・ 教育の専門家は、日本医学教育学会大会などに積極的に参加、発表、シンポジウムの開催などにより、常に最新の知見を得ている。

今後の計画

- ・ 引き続き、科学研究費の応募や AMED に申請する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 39：日本医学教育学会大会関連資料

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「4 大学間の学生教育交流会」の協定は評価できる。
- ・ 医学部以外の大学との包括連携協定、海外の複数の大学と姉妹校協定、医学部間協定が締結されている。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 2022 年度において、新たにロンドン大学クイーン・メアリー校（英国）と医学部間協定を締結した。また、2020 年度から、新たにサラゴサ大学（スペイン）と医学部間協定を締結している。
- ・ ハワイ大学、ケースウェスタンリザーブ大学、ニューヨーク大学（米国）へ、解剖実習に関する視察を行い、情報交換を通じた教育交流の充実がなされた。

今後の計画

- ・ マヒドン大学ラマティボディ病院医学部（タイ）、クロード・ベルナール・リヨン第 1 大学（フランス）と協定を締結予定であり、更なる教育交流の充実がなされる見込みである。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 40：医学部間協定校一覧
- ・ 資料 41：視察報告書

7. プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ プログラム評価委員会、昭和大学 IR 室、IR 委員会などを設置し、プログラム評価を開始している。
- ・ 教育委員会、臨床実習責任者会議、富士吉田教育部で課題の特定が行われている。

る。

改善のための助言

- ・ 学修成果基盤型教育を構築し、学修成果についてプログラムを包括的に評価すべきである。
- ・ 昭和大学 IR 室により全学に共通のデータ収集はなされているが、医学部の教務・学務に関連したデータを系統的、組織的に収集し、解析することで教育プログラムの改善に反映させる体制を整えるべきである。
- ・ ブロックやユニット内のカリキュラム評価は行われているが、ユニット間の調整や、カリキュラム全体の調整・評価を行うべきである。
- ・ 特定された課題をプログラム評価委員会に集約し、カリキュラム検討委員会においてカリキュラムを改善することにより、PDCA サイクルを機能させるべきである。

改善状況

- ・ 昭和大学 IR 委員会を定期的開催した。成績と学修時間との相関を検討し、成績下位者において長時間勉強する学生が一定数いることが判明した。
- ・ 昭和大学医学部 IR 委員会を、2022 年度 2 回開催した。全入学者の約 20%弱が留年した学年は、医師国家試験の合格率が 100%であることが判明した。
- ・ 全学生に対して、学修成果に関する進歩を調査した結果、新カリキュラムの学生は旧カリキュラムの学生に比して、医療面接や身体診察に関する達成度が優位に高かった。

今後の計画

- ・ 医学部 IR 委員会において、定期的に調査を実施する項目を決定し、カリキュラムの改善に役立てる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 42：2022 昭和大学 IR 委員会議事録
- ・ 資料 43：2022 医学部 IR 委員会議事録、関連資料
- ・ 資料 44：2022 年度教育目標の到達度アンケート（3 年生、4 年生）

質的向上のための水準：部分的適合

改善のための示唆

- ・ 個別の授業、講義、実習の評価は行っているが、学修成果についてプログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・ プログラム評価委員会がプログラムを包括的に評価することが望まれる。

改善状況

- ・ 長期間で獲得される学修成果は、アンケートにより新カリキュラムの学生は、高い達成度が得られた。
- ・ プログラム評価委員会を、2023 年 2 月 10 日に開催し、プログラムを包括的に評価した。

今後の計画

- ・ プログラム評価委員会の結果に対応し、カリキュラム改編を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 44：2022 年度教育目標の到達度アンケート（3 年生、4 年生）
- ・ 資料 23：2022 プログラム評価委員会議事録

7.2 教員と学生からのフィードバック

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 学生や教員の意見に基づいて、プログラムを改編・開発することが望まれる。

改善状況

- ・ 学生や教員から、委員会で意見や要望を収集し、2年次の基礎医学（8～10月）においてスケジュールを変更した。この変更により、過密化の更なる解消へ繋げるように検討した。また、意見を踏まえ、今後の1年次のプログラムについて、学内プロジェクトにて検討を行った。

今後の計画

- ・ 今後も、広く意見を取り入れ、プログラムの改編・開発に努める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 23：2022 プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料 45：M2 検討結果資料（2022 スケジュール、2023 スケジュール）
- ・ 資料 46：学内プロジェクト答申

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教員に対して3ポリシーの認知度アンケートを実施している。
- ・ 2017年からプログラム評価委員会を設置している。

改善のための助言

- ・ 学修成果に関して卒業生の実績を多面的に評価すべきである。
- ・ 学生や卒業生の実績評価に基づいてカリキュラムを改革すべきである。

改善状況

- ・ 全学生に対して、学修成果の実績を分析した。カリキュラム検討委員会やプログラム評価委員会において、学生の実績を分析した。
- ・ キャリア支援室による調査により、卒業生の実績を分析した。
- ・ 資源の供給については、毎月開催する教育委員会等において、学年代表から意見を得てカリキュラムの改編に活かした。

今後の計画

- ・ 卒業生や学生の実績により、カリキュラムの改編を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 44：2022 年度教育目標の到達度アンケート（3年生、4年生）
- ・ 資料 25：キャリア支援室アンケート
- ・ 資料 47：2022 教育委員会議事録

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学業成績不振者の情報が修学支援担当教育職員懇談会にフィードバックされている。

改善のための示唆

- ・ 学生の実績に関する情報がフィードバックされる委員会を明確にし、包括的な分析や改善に繋げることが望まれる。

改善状況

- ・ 昭和大学 IR 委員会により学修時間調査を実施し、IR 室運営委員会で検討した。2022 年 7 月に結果の概略を、9 月に成績上位と下位者による違いを、11 月に試験直前の状況を 2023 年 1 月に学修方法の違いによる差を、3 月に促進要因(コツ)や阻害要因について検討した。成績上位者は試験の 4 週間前から 5 時間以上学修する傾向があったが、下位者にも一定数存在した。勉強の促進因子は 8 カテゴリーに分類できた。阻害因子で最多は SNS であった。
- ・ IR 委員会の結果は、学務委員会へフィードバックを提供された。
- ・ プログラム評価委員会を、2023 年 2 月 9 日に開催し、学生の実績をフィードバックした。

今後の計画

- ・ 学生と卒業生の実績を分析し、責任ある委員会へ提供する。分析結果を基に、カリキュラム改編に繋げる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 48：学修時間と学修成果・教育課程の関連性調査報告
- ・ 資料 23：2022 プログラム評価委員会議事録

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ プログラム評価委員会に、教員以外に学生、事務職員、看護部長、保護者会、医師会長など多くの教育関係者が含まれることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ カリキュラム検討委員会とプログラム評価委員会に、教育関係者を増員した。

今後の計画

- ・ 引き続き、定期的に構成員を見直していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 21：2022 医学部カリキュラム検討委員会委員一覧
- ・ 資料 22：2022 医学部プログラム評価委員会委員一覧

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2015年度にチーム医療に関する卒業生のアンケートを実施している。

改善のための示唆

- ・ プログラムを評価し、結果を公開することが望まれる。
- ・ 教育の協働者が、卒業生の実績に基づきプログラム評価委員会へフィードバックできる体制を構築することが望まれる。

改善状況

- ・ 新たに委員となった教育関係者にフィードバックを求めた。

今後の計画

- ・ 構成員を常に見直し、適正に会議を運営する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 23：2022 医学部プログラム評価委員会議事録

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 広く学内外の教育関係者から意見を聴取できる体制にあることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ カリキュラム検討委員会やプログラム評価委員会などには、広く学内外の教育関係者を招き意見を聴取した。

今後の計画

- ・ 今後引き続き、多くの教育関係者の意見を、カリキュラムに反映させる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 21：2022 医学部カリキュラム検討委員会委員一覧
- ・ 資料 22：2022 医学部プログラム評価委員会委員一覧

8.4 事務と運営

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育プログラムの変更に伴い、医学教育推進室と昭和大学 IR 室、IR 委員会が設置されている。

改善のための助言

- ・ SD は行われているが、教育に関する内容を充実することが望まれる。

改善状況

- ・ SD 勉強会を開催し、2022 年度は医学部カリキュラムや富士吉田教育について学修がなされた。

今後の計画

- ・ 事務職員研修において、教育に関する内容を充実させる。
- ・ 引き続き、SD を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 49：2022 SD 勉強会案内

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 早期臨床体験実習や地域医療実習などで、保健医療部門、診療所・クリニックなど多くの地域医療機関と連携・交流していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 学部連携地域医療実習運営委員会で実習内容と運用方法を再検討し、改編した「学部連携地域医療実習（選択）」を、2023 年 2 月（Ⅰ期）、3 月（Ⅱ期）に 2 週間、実施した（5 月Ⅲ期にも実施予定）。
- ・ 本学の特色ある多職種連携教育の「学部連携地域医療実習」を、多くの 4 学部学生が選択するように、実習紹介ビデオを活用するなどして、学生への事前説明の機会を増やした。その結果、Ⅰ期～Ⅲ期で 17 名の医学生（過去最多）を含む、計 47 名の学生（医・歯・薬学部 5 年生、保健医療学部 3 年生）が参加した。

今後の計画

- ・ 1 年次「初年次体験実習」のうち、新型コロナ禍で中断していた福祉施設実習を 2023 年度に再開する。
- ・ 「学部連携地域医療実習」への参加希望学生数の増加が期待されるため、東京都内、神奈川県内、山梨県富士吉田市内などの地域の医療機関（クリニック、薬局、訪問看護ステーションなど）、職能団体（医師会、薬剤師会など）や行政の保健医療部門（保健所など）と連携・協力して、実習地域および指導者数を拡充する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 50：2022 学部連携地域医療実習実施要領
- ・ 資料 51：昭和大学「学部連携地域医療実習」の紹介（ビデオ）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 早期臨床体験実習や地域医療実習などで、福祉施設、近隣の診療所などにおいて多職種のスタッフと協働の体験をしていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 新型コロナウイルス禍のために 2020・2021 年度は学外実習を中止あるいは縮小していた 1 年次「早期臨床体験実習」、3・5 年次「地域医療実習」の学外実習の大部分を多くの地域医療機関のご協力のもと、再開することができた。学生と実習先の職員・患者・利用者の安全のため、保健管理センターで罹患者の把握と情報共有を行った。また、「昭和大学病院 PCR センター」の協力のもと、実習前に PCR 検査あるいは抗原検査で新型コロナウイルス陰性を確認した。
- ・ 上述の部門も参画した「新型コロナウイルス感染対策学務委員会」を毎月開催し、学生教育が滞りなく進められるようにした。

今後の計画

- ・ 2023 年度は 1 年次「早期臨床体験実習」、3 年次と 5 年次の「地域医療実習」の実施前に学生全員に抗原検査を行い、新型コロナウイルス陰性を確認後、従来と同規模・内容の学外実習を実施する。さらに、文部科学省「感染症医療人材養成事業」の一つとして、実習実施前に、COVID-19 などの感染症対策の演習を行い、感染対策を実践する地域医療機関と連携して感染症医療に適切・安全に参加する能力を学修する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 1：2022 シラバス (M1)
- ・ 資料 2：2022 シラバス (M2～M6)
- ・ 資料 15：2022 年度 M3 地域医療実習手引き
- ・ 資料 52：新型コロナウイルス活動報告書 (抜粋)

9. 継続的改良

基本的水準： 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 1994 年に「自己評価委員会」が設立され、以来継続的に自己点検・自己評価が行われていることは評価できる。
- ・ 2012 年度から「自己点検・自己評価報告書」が毎年作成されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 教育プログラムの構造、内容、学修成果、評価ならびに学修環境を自己点検し、明らかになった課題については速やかに改善すべきである。

改善状況

- ・ カリキュラム検討委員会、教育委員会、プログラム評価委員会を中心に医学教育プログラムの構造と内容が定期的に点検されている。

今後の計画

- ・ PDCA サイクルを円滑に実施し、改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 24：医学部カリキュラム関係組織一覧

質的向上のための水準： 評価を実施せず

改善状況

- ・ 八潮市教育委員会主催「八潮こども夢大学」構想に協力し、2022年12月3日に、教職員と医学部および保健医療学部学生の指導により、八潮市内の小学生11名が、診療手技や救急蘇生を体験した。

今後の計画

- ・ 引き続き、全ての項目において、検討や改善を推進する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料53：八潮こども夢大学実施概要（2022.12）